

事例名			
ファッション造形基礎における他者との学びの深まりについて —ロイロノートの活用—			
校種・学年	高等学校・3年		
教科・科目・単元・題材	家庭科・ファッション造形基礎・浴衣の製作		
学校名〈任意〉	京都府立城陽高等学校	事例報告者氏名〈任意〉	藤川 歩
機能名 (アプリ名)	ロイロノート、Keynote、カメラ		

ICT 活用のポイント

ファッション造形基礎では毎年浴衣の製作に取り組んでいる。教員が全体に手順の説明をし、その後個人の作業時間になる展開がほとんどである。すると、手順がわからなくなった生徒が教員を次々と呼び、その対応で2時間の授業時間が終わってしまうことが頻繁にあり、指導の困難さを感じていた。また、学習の記録(振り返り)では、「大変だった」「難しかった」などの感想が多く、思考力を伸ばす学習の広がり深まりを感じ取ることができなかった。そこで、①ロイロノートを使って手順を写真や動画で配信し、個々の進度に応じて見返しながら進めることにした。また、②共有ノートに作業を通しての気づきを書き込み、次の授業の最初に個人のノートの振り返りとあわせて共有ノートを見てから授業を始めることにした。

活用場面

①本時の作業の説明:全体を1か所に集合させ、実物(教員が試作したもの)を使用して手順を説明したのち、教室のスクリーンでロイロノートに配信したスライドを説明する。(写真左はKeynoteで作業手順を文字と写真にしたもの、右はカメラで動画撮影したものをロイロでスライドにしたもの)



②本時の作業の振り返り:共有ノートに「失敗や工夫したこと、解決方法を共有することでみんなの作業の質が上がり、学びが深まるきっかけにしよう!カードには★○○を縫っている時に、△△になる失敗をした。◇◇すればよかった…★○○する作業の時は△△を◇◇してみたらうまくいったよ。などを書こう。」と指示した。カードを作成しながら同時に他者の書き込みも見ることができる。次の授業の最初には個人のノートを見返して各自作業がどこまで進み、前はどのようなことを感じながら作業していたかを思い出させ、そして、共有ノートを全体で確認する場面を作り、本時の作業で気を付けることは何かを意識づけした。(写真左は共有ノートへの各自の書き込み、右は個人のノートに書き込む振り返り)

書くべき内容	共有ノートへの書き込み	振り返り	その他
5月24日	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	
5月29日	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	
5月31日	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	

日時	作業目標	振り返り	気づき	学び	評価
5/24	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	
5/29	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	
5/31	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	浴衣の製作手順を写真と文字で共有し、生徒が各自の作業を進めながら確認できるようにした。	

授業者のコメント・児童生徒の主な反応等

作業内容を写真や動画として自分の iPad で見られるようにしたことは作業のしやすさにつながったかというアンケートに対して、生徒は 4.4/5 点満点という評価をつけた。わからない時は6割の生徒が「教員に聞く」ことを優先すると答えたが、授業中に教員を呼ぶ回数はかなり減り、自分たちでまずは理解しようとする姿勢がみられるようになったという実感がある。また、共有ノートが参考になったかというアンケートに対しては4.2/5点満点という評価だった。他者の作業を見たり、アドバイスし合ったりすることで学びの深まりを感じており、個人のノートに記述する内容も全体的に具体性が上がっている。同じ目標に向かう他者の存在を活かし、学びを深めるために ICT をきっかけとして有効に活用することができた。

